

第6回研修 「スタジアムのゴミ減量への取り組みについて」報告書
～ 3/15 ナビスコカップ・柏レイソル戦での予備調査から

日時 2003年3月16日(日) 10:30~12:00

場所 セルバ 5F セルバホール (仙台市泉区泉中央)

講師 (財) みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)理事 門田 陽子 氏

受講者 20名



講師紹介 門田 陽子さん
静岡県出身、社会保険労務士の
かたわら、環境カウンセラー・省
エネルギー普及指導員、そして「み
やぎ・環境とくらし・ネットワーク」
MELON理事として活躍。

【 MELONの活動目的について 】

おはようございます。WNさんから、仙台スタジアムのゴミについて考えているとお話をいただいています、こういう機会を得ました。最初に MELON の紹介をさせていただきます。ちょうど 10 年前、1993 年 6 月 5 日に設立された団体です。最初は財団法人格はついていなかったんですが、より広く、積極的に活動を行っていくために、当時は NPO 法人という制度がなかったものですから、財団法人という形をとりました。MELON には 3 つの目的があります。**地球環境を大切にしてい、教育文化の普及と啓蒙・啓発を進める。子どもたちの教材を作ったりしています。**地球環境を保全していくための活動を企画し、川や山に出かけていくこともあります。また、世界のいろいろな環境に関する会議に、市民代表として MELON メンバーを派遣しています。地球環境サミットへも派遣しました。個人会員が約 1000 名、企業・団体の会員が 130 社、大きなところとしては、みやぎ生協・日専連仙台会・JA・漁協・県魚連・森林組合といったところが入っている民間の団体です。

MELON のテーマを簡単にいうと、「緑の地球を子どもたちへ」ということで、ロゴマークはこの形です（ジャンパーの背に入っているものと、男性が地球を抱えているイラスト）。

会員の皆さんが中心になって、地球温暖化防止のグループであるとか、国内外からの情報を宮城に発信するという、情報センターの役割も果たしています。10 年前から情報化時代に対応した NGO が登場したのですが、そうした情報発信の各種整備もしています。また、緑・食・水情報交換の場・学習のためのセミナー企画・企業・環境・ゴミという視点に立って、会員はどれかに関わって活動しています。また、普段は時間が無いという方も、興味のあるものにだけ参加したり、まずは会費だけで参加してという人もいます。情報誌が 2 ヶ月に 1 回配布されます。ゴミ減量プロジェクトとしては、1 年に 1 回「お下がり市」を、10 月か 11 月頃、勾当台公園で開催しています。約 130 店、7000 人のお客さんが来ました。毎年いらなくなった衣類を集めて、「パフの山」を作ります。綿がお金になるので、それをリサイクルするとだいたい 4 万円程の収益になりました。今年は地下鉄旭ヶ丘駅前に、2 本の木を植えました。今後も植樹をさせていただこうと思っています。このようなことをやっています、

私のテーマは「紙ゴミ」なので、今度その集大成を発表する会があるので、興味があればどうぞおいでください。仙台スタジアムも、チラシが大変多いということで、後でお話しますが、ゴミ袋の中にも紙が多いようなので、ちょうど私たちの学習してきたものと一緒であるということから、お役に立てれば、と思っています。また、ちょっと前の話ですが、1998 年にどんと祭の時燃やす飾りから、ビニールを取り外す試みを、神社の方をお願いして始めたということも、ご紹介しておきます。

今日は一切皆さんに紙の資料をお配りしていません、それがゴミになるのは嫌だなと思ったので。ですから、私の話が少しでも心に残ってもらえたら、それでいいかなと思っています。

ゴミの問題というのはとても奥が深くって、実際には一概に言えるものではないのですが、**「大量生産」「大量消費」「大量廃棄」が、ゴミを現すキーワードになっている**わけです。たくさん作って、たくさん売って、たくさん捨てるのが、日本の経済・世界の経済を大きく動かしてきたわけです。それに伴ってゴミになるものも増えてきた、もとをたどっていくと、資源の枯渇の問題であったり、紙だと森林の伐採の問題になっていくのではないかと思います。ここにはないのですが、世界の家の中からものを出してみよう、という企画があって、その国によって、出されたものが全然違って来るんですね。日本の場合、家

の前にもものを出してみると、家が見えなくなる位(笑)たくさんものにあふれています。もしかしたら、先進国とこれから発展していく国では違いがあるでしょうが、今後私たちが考えていかなければならない部分があるのではないか、と思っています。

【 スタジアムのゴミ減量について 】

今回スタジアムの「ゴミを減らしたい」ということで、12月定例会の時に参加させていただいて、皆さんがゴミを減らすにはどうしたらいいかという話をしているのを聞きました。減らすというには2つあって、目の前だけで減るということを考えるなら、カサを減らすということが言えます。コップだったら、袋の中にバラバラに10個入っているのと、重ねたのでは、重ねた方は1個プラス3cmの大きさしかない、ということが言えます。また、ファーストフード・テイクアウトの店では、段ボール・箱の状態で売られているものは、そのまま入れれば5個位で袋は一杯になってしまうが、たためば、多分10倍位は入れられるのではないかと。そういう意味では、カサを減らせば、袋の枚数を減らすことや運ぶ労力を減らすことは、まず可能ではないか、と思います。それは最初の取り組みとしてはすごくいいことです。ただし、それではゴミの量そのものは減っていないんですね。根本的な解決にはなっていない、というところで、さっき話した「大量生産」「大量消費」「大量廃棄」と資源の問題の解決にはなっていないということです。ゴミそのものを減らしていくためには、ゴミの発生自体を減らしていくことを考えていくことになる。今回は、2つあわせて考えていきたいと思います。ただし、スタジアムは非日常・お祭りの空間であって、人としてのモラルをどこまで訴えていけるか、というのがあります。それから、昔の公害と今の環境問題の大きな違いで考えてみると、昔の公害は原因と被害の関係・発生源がはっきりしているため、蛇口をきゅっと締めると水が止まるように、ある程度被害をくい止めることが出来るが、環境問題は、私たちの生活全般から出ていることであって、自動車の排気ガスが空気を汚すこと・電気を使うことが石油・石炭を燃やすことという風に、根本的に蛇口を締めるわけにはいかない。じゃ石油・石炭を燃やすのをやめましょう、電気は止まります、では、生活がストップしてしまうそういうことを考えると、これをスタジアムに置き換えると、どこまで蛇口を締めることが出来るかを考えると、難しいということがあります。

基礎的な循環ということで考えると、ゴミを減らす時に理想的に資源がまわっていくことを考えると、**ものを作る-使う-ゴミになるものを手元に置かない、これを発生抑制(リデュース)といいます。** どうしても使うものでも最後は捨てるとしても、**もう一回生産・流通にまわすことが出来るものは、再使用(リユース)します。** それでもどうしてもゴミになってしまうものは、ゴミとして処理しなければならないけれども、**同じ形でなくても資源としてももう一度使えるものはリサイクルという形をとることができます。** そうすると、ゴミはかなり減ると思います。そうなれば、循環型社会・ゴミの出ない理想的な気持ちのいい社会になり、スタジアムも少しでもこれが出来たら素敵なのではないか、と思います。

MELON にこのお話をいただいた時、まさに3つの目的に合っているということで、ネットワークを活用して、互いに力を合わせて、一つの地域のために活動できるという、MELON にぴったりのことでしたので、プロジェクトとしてあげさせていただきました。そこで**公約・お約束をここでご紹介したいと思います。** **地域に根ざした活動・わかりやすい活動提起・幅広い市民が参加しやすい活動・企画参加を通じた新たな担い手を作る、**ということです。もっとも、環境やさんが好きな人でもサッカーにここまでのめり込

んでいるという人はなかなかいないのです。私自身は実は静岡県藤枝市出身(驚)で、サッカーで超有名な藤枝東高校出身で、子どもの頃から体育の時間はずっとサッカー、女の子もボールを蹴っていたようなところで住んでいました。

【 ナビスコ柏戦スタジアム調査の報告 】

プロジェクトのメンバーとしては、まず状況を知りたいということで、昨日の柏レイソル戦からスタジアムに入れていただくため、パスカードを発行していただきました。今までの話を踏まえて、ここからは、昨日私たちが見させていただいたことについて、報告していきたいと思います。

昨日は予備調査ということで、勝手に黒い集団がウロウロしていて、大変びっくりされたことと思います。スタジアム新参者ばかりでしたので、まずはスタジアムを案内していただきまして、ぐるっと1周してみました。それから、どれほど混雑しているかを観察して、どんな調査をしたらいいか方法を探り、3/23に本調査をするので方法の見極めをしよう、さらにせっかく入れていただくのですから、スタジアムのできる調査をしよう、ということになりました。スタジアムを ABCD4 つにわけて客席入り口に3人ずつ、ゴミを投入する場所があるので、両脇に立って1人はひたすら数え、もう1人がカウントし、デジカメで周りの状況を見る人、お客さんの流れを見る人、お店販売物を見る人ということでチームを作りました。昨日のポイントはあんまりあっても混乱するので3つだけ、ゴミを分別するための設備があるかどうか、観客のゴミ捨てに対するマナーはどうか、ボランティア分別の負担を軽減するにはどうしたらいいか、に絞りました。会場に入ると、メンバーが雰囲気呑まれてしまって、すごーいとかいって、すっかり素人になってしまいましたが、(デジカメで撮ったものいくつかを説明しながら)昨日の映像で気になったことを挙げていきます。

ゴミ袋を手すりに貼っている点、手すりとしての役割を果たしていないのではないか、ということですね。それ自体の問題があります。袋の端をピンと張って留めてしまうと、袋の手前側の余裕がなくなってしまい、ゴミを投入する時の入り口が狭く、量を入れることが出来ない。ボランティアはゴミ袋にたくさん詰めるには、となりの袋を一つはずしてからゴミを移して、つぶしてしばっているんですね。私たちが試しにいくつかのゴミ袋をはずして、手前側を多めにして袋の幅を縮めて貼りなおしてみたのですが、そうすると、お客さんも何が入っているか確認して入れる素振りがあったり、引っ張って入れたりする姿が少々見受けられました。口が大きく開いていれば、どうせなら多く入れようという気がお客さんにあれば、ボランティアの手間は減るのかな、貼り方次第なので、工夫の余地はすぐにもあると思いました。

それから、観客席入り口の手すり一列に、ゴミ袋が貼ってありますが、場所によって貼り方がまちまちなんですね。片方にピン・缶、ペット、向かい側に燃やせるゴミとなっているところと、対称にピン・缶、ペット、燃やせるゴミとなっているところもある。どうも、ペットボトルとその他のゴミを捨てに来る人は、ペットを持ちながらウロウロしている。ペットの袋が1ヶ所にしかない、混雑してぶつかっているケースもあった。両側にそれぞれ1枚ずつ貼ってあればよいと思いました。それから、ペットを観客側に、燃やせるゴミをコンコース側に貼れば、燃やせるゴミの袋に、ペットもそのまま捨ててしまうということがなくなる。このようなことに気をつけて、どれ位改善できるかはわかりませんが、3/23に試してみることになります。

持ち込みゴミもすごく多くて、売店で買っているものもありますが、このように入る時の様子ですが、コンビニなどの袋を下げて、列に並んでいるのがわかります。手提げを持っていますね。ところが、帰りの姿を見ると、誰も手提げを持っていない(笑)。みんな綺麗さっぱりになっているということは、外から持ち込んだものを全て中で捨てているということが良く分かります。もう一つ気になったのが、スタジアムの中で売っているもの、30歩歩くだけのために、**手提げ袋**が使われている。出来ればその場で食べるものは、袋に入れて下げなくても、両手で抱えて運んでもらってもいいのではないか。袋があれば、ゴミになるものは全部その中に入れてしまう、捨てれば全部ゴミ、みたいになってしまいますね。袋があると見えなくしてしまう、クサイものには蓋、ではないのですが、袋が白いため、罪悪感を隠しているような、そんな感じになっている印象を受けました。

プラスチック製品は、重なっていると強度が堅くなってしまって、後からつぶそうとしても大変になってしまうので、せめて重なってなければ、**踏みつぶす**とか上から乗るとかして形をかえてやると、処理をしやすいと思います。箱も同様で、テイクアウト商品なのに、持ち帰り用の箱で売られているものは、つぶしてあるのとないのでは、相当違います。これはボランティアの弁当ですが、「目の前で減らす」ことを考えると、観客の方は、バラエティに富んだ弁当箱なんて重ねるのは難しいかもしれませんが、こちらは同じ形なので、蓋と本体を**分ける**、で**重ねる**ことでかなり見た目に違ってくると思います。皆さんは日常生活の中では分けていらっしゃると思いますが、誰かが分けて置いてくれたら、何人かの人は重ねてくれると思います。紙容器の飲み物も、つぶすだけでも違いますね。小・中学校の時、紙パックの牛乳・ジュースはべったりつぶして捨てていたので、そうするだけで目に見えて減って行って、1枚180円する袋も枚数が減らせるのかなぁと思います。

昨日のゴミ袋は、4ヶ所に分かれてダストシュートの上からカウントしてみました。なぜか昨日は、下の搬入口もずっと開いていたみたいで、下を開けたらどわーっと出てきてしまいました。最初のうちは、床面にゴミを敷き詰めなければならぬので開けていると聞いていたのですが、その後も下から入れられていたようで、完全な数をカウントすることが出来ませんでした。それでも400袋ほどありました。もうちょっとあったとして、450袋位だったかと思います。2万人で600~650袋であると聞いていましたから、1万6000人で450袋というのは、数の上では少ないですけども、割合としては変わらない。大体1人当たり500gのゴミを出していることになります。弁当箱・飲み物が袋に入っている位の重さですが、2万人になると10tにもなりますから、そういう量になってしまいます。それだけでなく、つぶされていなかったということを見ると、空気を運んでいる場合も多かったのではないかと、思います。それはもったいないなと思いました。

【 次のステップに向けて 】

3/23は、今回の2倍の8人を4ヶ所に完全に配置して、**総量調査**をしっかりチェックしてみようと思います。**質的な調査**もやってみたいと思います。また、**席種による違い**も随分あったと思います。回ってみて、私たちもなるほど思ったのですが、たばこの煙が盛り上がっている・ゴミが荒れているところ(バック・サポーター自由)とか、ものすごくビールのコップの量が多いところ(メイン・SSやスポンサー・招待)とか、ビールのコップがほとんど出ない、弁当箱が多いところ(ホーム側ゴール裏・ファミリー指定)

とか、持ち込みゴミがすごく多い、早くからきているところ(アウェー側・ビジター自由)など、私たちがら見ていると、おもしろい結果が出ていると思います。徹底して見てみようと思い、昨日も**時系列**で5袋、試合前・前半試合中・ハーフタイム・後半試合中・試合後と袋を広げて**サンプリング**をしてみました。そんなに特徴的なものは出てこなくて、むしろあまりにもバラバラな結果でした。今後も続けていきます。

次回こんなことをやってみよう、という点をお話しておきますと、私たちのできる範囲、ボランティアの負担にならない程度に、ゴミ袋の貼りなおしを一緒にさせていただくことで、分けやすい方法を進めていきたいと思います。また**ゴミ袋の表示**があるところとないところ、見えやすい見えにくいところがあるようなので、中にはどこに捨てたらいいかわからなくて立ちすくんでいる観客もいたので、わかりやすい表示を4班でそれぞれ工夫して作ってくることにしました。どこの班が分別に成功するか、楽しみです。表示には色をつけて、袋の字の色と同じにします。仙台市在住の人は、そろそろプラ曜日にも慣れてきているのですが、スタジアムではペット以外のプラが「燃やせるゴミ」という表示になっていて戸惑うようだ。燃やさなくていいものも入れてしまうので、悩むようです。他市町村の方だと、それぞれの分別の仕方があり混乱をしているでしょうから、ここにはこれを入れる、ということをはっきりと示すことが大事だと思います。

実はゴミの問題というのはとても大きくて、事業主(スポンサー)・店舗出展者・チームのそれぞれがやらなくちゃならないことというのがあると思うのです。店舗出展者の中には、ダンボールなどに燃やせるゴミの袋を貼って、そのまま置いていってしまうところもあったので、そういうところから詳しく調べていきたいと思います。それから昨日弁当が通常の3割しか売れなかったという店舗があったと聞きました。店の人はチームからの情報が間違っていたというのですが、1万6000人入って何の情報が間違っていたのかはちょっとわからないのですが、確かに昨日は寒かったので、温かいものを持ち込んで食べた人も多かったのかもしれない、温かいものを食べてから入場したのかもしれない、もう少し弁当を準備している店舗にしても、そういうことを考えていくといいのかもしれない。

次はボランティアの意見を時間を見つけてお伺いしながらやっていきたいと思います。昨日も作業をしながら少し話をしたり、黒いジャンパーなので、声をかけられたりしていましたので、店舗の人にも迷惑のかからない範囲で聞いてみたいと思っています。

サンプリングの結果では、観客の食べ残しの方は少なくて、むしろボランティア弁当の方が多かった。飲み残し用のバケツは凶器になるといけないので、最後まで出さなかったのですが、途中から寒くなってきたのでビール飲むのやめてしまった人がいて、飲み残しが入ったままの状態、手すりの際間に差していった観客がいて、どこかに捨てたいけど、捨てちゃいけないというのはわかってて、誰かが始めたのに倣ってはさんでいったようでした。何か方策がないか、考えていました。次回は20人規模・聞き取りもしてみたいと思います。

【 リユースカップの取り組み 】

いつか実現したらいいな、と思っていることを紹介します。リユースカップです。ニュースなどでご覧になった方もいらっしゃると思いますが、大分トリニータのホーム、大分ビッグ・アイでは、環境省が後押しをして、デポジット制のカップを始めました。保証金100円を上乗せして、カップを返せば100円

戻ってくる、というもので、東京の会社が一括してビッグ・アイの出展を請け負っているということで導入されたそうです。ドイツ製のカップで、ロットの関係で日本では作ることが大変だということで、ドイツから輸入しているのですが、何回使えるか、衛生的にどうかなど調査してみるということでした。大分でどの位の減量効果が出るか、という試算があるのですが、大分では1試合平均1万7000人の観客数で、6割がカップ使用として16試合に換算すると、16万個のカップが削減できるという計算だそうです。次回対戦相手は大分なので、その様子も聞けたらいいなと思っています。店舗に聞いてみたが、もう一度紙カップを持ってきたら、それに入れてくれるそう(価格は据え置き)。

地球人間環境フォーラムから、資料・カップを取り寄せることができましたので、近いうちにお見せできると思います。各スタジアムと連携を取ってこの共通のカップを使っていけたら、日本中でもっと広げていきたいということも聞きましたので、仙台スタジアムでいつ実現できるかは分かりませんが、できたらいいなと思いました。

そこまでいなくても、紙コップは規格が違うのと、ビールをナミナミ注ぐのでコップがフニャフニャになって、恐る恐る運んでいるのを見ましたので、その試合だけでも何度も使えるカップ、**日付と対戦相手が入ったようなカップ**を作れたら、その日だけのプレミアムなので持って帰るのではないか、という意見もありました。それを集めるとコレクションになりますね。皆さんにそういうカップがあったら買うか、ということも含めて聞いてみたいと思います。

今後チームとの連携がうまくいったら進めたいのは、昨日も**ビジョンにマナーアップキャンペーンのお知らせ**が出ていましたが、試合前だけでなく、試合後ももう一回流してもらえるといいなと思います。勝って盛り上がってしまうと、忘れちゃうんじゃないかなあと思ったので。メッセージについてのアイディアとしては、選手11人プラス監督の分をあらかじめ撮っておいて、点を入れた人の映像を流す(笑)とか、ストックがないと、レッドカードとかで退場した選手が「ゴミ持ち帰ってください」と言っても、余計反乱が起きるかもしれないので(苦笑)、こうした企画がキャンペーンとしてできれば、仙スタ名物としておもしろいのではないのでしょうか。サポーター・子どもにとって選手の偉大さ・親しみやすさを活用していくことで、ゴミに関することはマナー・モラルというよりも、サポーターだったら当たり前というような、それがカッコいいような雰囲気作りをしたいです。スタジアムに来た時のじぶんたちの一つ、みたいに見えるといいなあ、そのために、楽しく・カッコいく・素敵なことになるゴミの取り組みを進めていけたら、と思います。ここが非日常だから爆発したいという気持ちにうまく乗っかりたい、それを上手にプロデュースできたらいいなあと思います。

すぐにでも出来ることとしては、段ボールは有価物なので、回収業者はすぐに引き取ってもらえますから、次回しっかり調査した上で、検討したいと思います。

【 質問・感想 】

たかがゴミと思うが、やり方次第でいくらでも改善できることが分かって、とても感心している。

昨日のマッチデープログラムにも、柏レイソルのゴミに関する取り組みが書いてあったが、アウェーになると、どうしてもマナーが悪くなってしまいうようだ。

試合が勝った・負けたでも気分が違って来るかもしれない。

ごみ減量の経過・成果を見せていくと、協力する側もやる気が出るかもしれない。

市民後援会が行っている、試合前ビジョンの活用であるホットボイスで、先ほどの選手メッセージができるかもしれない。

選手が呼びかけた方が絶対に効果が上がると思う。

去年は 750 枚、今回は少なかったと思う。カントリーロードでのアンケート結果では、持ち帰りをしたらという意見も多かった。分別と持ち帰りを同時に進めていくのもいいのではないか。

3/23 は 15 : 00 キックオフなので、お昼過ぎでの入場で、弁当のゴミの量は変化するのではないか。

仙スタは手すりを使っていて、宮スタは壁に貼っている。会場による違いがある。

ビールが 600 円に一斉値上げ。(リーフでは)ビールにバナナをつけていた。

昨日は初心者が多くて、手順がわからない人がたくさんいたので、そういう方々にゴミ問題に関わってもらうことは可能と思う。

紙の配布物がゴミとして多くを占めているのではないか。

ボランティアの弁当はすぐにも分別してみたい。

3/23 から早速、ふた・本体・生ゴミ・紙容器・プラスチックに分けてみることに

MELON の三浦さんが生ゴミを引き取ってくれることになった

ボランティアも昼食の飲み残しをどう処理をしたらいいか、分からない人がいるので、指示さえしておけば、きちんとできるのではないだろうか。

店舗のゴミ処理意識が高いとは言えないところもある

Jリーグを盛り上げている仙台で、サポーターが仙スタの環境問題に取り組んでいるということが広がれば、仙台という街のアピールとしても絶大であるので、是非進めていただきたい

(文責 小野 枝美子)